

座長：武井 実根雄（原三信病院）

慢性前立腺炎／慢性骨盤内疼痛症候群 (CP/CPPS) に対する漢方薬の有用性

八木クリニック

八木 静男

【目的】

慢性前立腺炎(慢性骨盤痛症候群)は難治性のことが多く、原因は判然としないことも多い。いわゆる「泌尿器科的神経症＝Urogenital Neurosis」に含まれる疾患群の一つである。薬物方法としては抗菌薬やセルニチンポーレンエキスなどが繁用されるが、治療に長期間を要することが多い。今回、難治性慢性前立腺炎(慢性骨盤痛症候群)に対する加味帰脾湯の有用性について検討を行った。

【対象と方法】

慢性前立腺炎については、症状のほか、生活環境、心理的要因、男性更年期などについて問診を行い、抗菌薬など薬物療法で対処する必要がある。薬効が乏しければ2番手、3番手の薬に変えていくという継続した粘り強い治療が必要である。当院ではこれら難治性慢性前立腺炎(慢性骨盤痛症候群)症例で、漢方薬(加味帰脾湯)により症状の著明な改善がみられた症例を多数経験した。治療効果判定としては米国国立衛生研究所慢性前立腺炎症状スコア(NIH-CPSI)を用い、QOL上の評価としてEQ-5D-5L、心理面での重症度評価としてHADS(Hospital Anxiety Depression Scale)を用いた。

【結果と考察】

著効例を多数認め、副作用もほとんどみられなかった。加味帰脾湯は視床下部室傍核のオキシトシンニューロンを活性化し、実際にそこからオキシトシンが分泌されていることについても確認がなされている(下村ら)。オキシトシンは「愛情ホルモン」として知られているが、極めて多彩な作用が注目されている。今回、オキシトシンを介しての?慢性前立腺炎に対する加味帰脾湯の有効性について考察を行ったので報告する。